

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	スーパー（店 長）	来客数の動き	・消費税増税の影響が弱まり、消費マインドは回復している。	
		通信会社（営業 担当）	販売量の動き	・新しい料金プランの開始や新商品の発売等により、販売量は増加している。	
(四国)	やや良く なっている	商店街（代表 者）	お客様の様子	・株式市場は安定しており、景況感も回復傾向にある。	
		一般小売店〔書 籍〕（営業担 当）	販売量の動き	・店頭売上は前年を下回っているが、外商は増加しており、全体では前年並みを確保している。	
		百貨店（営業担 当）	単価の動き	・消費税増税直後に比べると客足が回復し、単価も上昇している。	
		スーパー（財務 担当）	単価の動き	・消費税増税の反動は終わり、賞与の増額などから比較的、高値商品の売上が増えている。	
		コンビニ（店 長）	来客数の動き	・天候に左右されるものの、おおむね来客の動向は良好で、売上も順調に推移している。	
		衣料品専門店 （経営者）	販売量の動き	・4～5月は消費税増税にもかかわらず比較的堅調に推移していたものの、6月はバーゲンを待っているのか、横ばいの状況。	
		その他小売 〔ショッピング センター〕（支 配人）	販売量の動き	・消費税増税の反動は終わっている。	
		観光型旅館（経 営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響はほとんどなく、来客も増えつつある。	
		旅行代理店（支 店長）	お客様の様子	・夏場の個人旅行の申込が前年を上回っている。国内は首都圏や京阪神方面が人気で、海外ではヨーロッパ方面の申込が多い。	
		通信会社（社 員）	販売量の動き	・新サービスの反応が良く、販売数は前年に比べて、大幅に増加している。	
		通信会社（企 画）	お客様の様子	・比較的、高額商品が売れており、ここ数か月は集合物件の引き合いも増えている。	
		変わらない	商店街（事務局 長）	来客数の動き	・3月に閉店した百貨店の影響と思われるが、昨年より1～2割程度来客が増えており、消費税増税の影響はあまり感じられない。
			一般小売店〔生 花〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響は収まりつつある。
			一般小売店 〔酒〕（販売担 当）	お客様の様子	・価格競争が激しい酒類業界では、小売店は価格面で大手系列スーパーに太刀打ちできない。
百貨店（総務担 当）	それ以外		・売上は横ばいで推移している。		
スーパー（企画 担当）	単価の動き		・消費税増税の影響もひと段落つき、雑貨関係の反動減も回復しつつある。		
コンビニ（店 長）	単価の動き		・例年通り、夏に向け客数は増加しており、前年に比べて微増しているが、客単価は下落している。		
コンビニ（総 務）	来客数の動き		・天候や気温に左右されるが、季節要因による伸長を加味しても変化はない。		
乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き		・4月以降の販売量に変化はなく、例年を大きく下回っている。売上は3月までの受注で前年並みを維持出来ているが、受注残がなくなる7月以降は厳しくなるだろう。		
その他小売 〔ショッピング センター〕（副 支配人）	お客様の様子		・消費税増税の影響は見られなくなったが、消費者の慎重な姿勢は変わらず、景気が良くなっているわけではない。		
タクシー運転手	来客数の動き		・乗客数は、少しだけ増加している。四国八十八箇所巡りのお遍路さんは、やや増加しているが、ここ数か月、大差はない。		
ゴルフ場（従業 員）	来客数の動き		・6月は、前年に比べ、来場者が減少した。		
競艇場（職員）	販売量の動き		・6月は本場開催が他の月より少なく、前月比26%減、3か月前比29%減、前年比20%減と、大幅な減少となった。		
美容室（経営 者）	お客様の様子		・固定客がほとんどで、新規の客は現れない。		
住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子		・長期固定のお客様が多く、安定している。		

やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・夏物の売上は非常に悪いが、早くから夏物バーゲンを待っている様子もみられる。	
	一般小売店〔乾物〕（店員）	来客数の動き	・来客が少ない。	
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・6月は消費税増税の反動が落ち着くと想定していたが、前年を下回った。食品・大型専門店が堅調であるが、高額商品の受注が減少しており、また冷夏の影響で主力の衣料品が苦戦している。	
	衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税後、売上は低迷しており、前年に比べ5%程度落ち込んでいる。春夏商材のセールがスタートしているが、客単価の下落が売上を押し下げている。	
	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・消費税増税の反動が依然続いており、6月も新車受注が減少している。この状況は9月頃まで続くのではないかと。	
	スナック（経営者）	競争相手の様子	・同業者も含め、6月の売上は落ち込んでいる。	
	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・消費税増税の影響か、宿泊客数は減少している。特に、レストランの利用客が減少している。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・光熱費、各種税金など、消費税以外の値上げが影響し、客単価・来客数共に低迷したままである。	
	悪くなっている	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月の7割、前年の5割程度まで落ち込んでいる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車販売は消費税増税の反動が予想以上で、景気は回復していない。
乗用車販売店（営業担当）		販売量の動き	・来店客数、受注台数は4月より改善されているが、前年を下回っている。	
タクシー運転手		お客様の様子	・例年、6月は業界の売上が一番低いことから、客足は悪い。ただ、消費税増税で客単価は上昇している。	
企業動向関連 (四国)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・太陽光発電の案件が大型化したことから、受注量が先月に比べて、1.5～2倍程度と大幅に増加している。
		通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・料金プランの改定や夏モデルの発売により受注量が伸びている。
	変わらない	農林水産業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・市場出荷量が少なめに推移しており、量販店等の積極的な売り出しもなく、荷動きは落ち着いている。
		食料品製造業（経営者）	取引先の様子	・受注量は少ない。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・先月までと比べて、小売店の店頭売上は悪く、発注量が減少している。消費税増税後、消費者の買い控えが起きているのではないかと。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の荷動きとしては想定内。ただし、価格は予定通りの水準にまで上昇させていない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・国内受注は堅調に推移。海外は地域差があるものの、全体としては堅調である。
		建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注件数、受注高、売上ともに減少している。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・例年、仕事量が少ない時期であるが、今年は相当の仕事量を有している。また、次年度の新規採用増や慰安旅行の復活など良い話が聞こえてくる。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格は徐々に上昇しているが、まだ十分な水準ではない。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・先月と変わっていないが、良い流れにはなっている。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の魚の加工業者は、漁獲量が減少しているため仕入単価が上昇しているものの、販売価格に転嫁できない状態にあり、収益面では非常に苦しい状況が続いている。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の決算書、試算表を見る限り、前年並みの企業が非常に多い。	
やや悪くなっている	鉄鋼業（総務部長）	受注価格や販売価格の動き	・現在の当社製品の受注・販売は造船会社等が円高時に契約したものが大半で、最安値価格となっている。材料等が値上がりし、採算は厳しい状況である。	
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・3か月前は消費税増税前の駆け込み需要による増販が含まれており、今月はその影響が残っている。	

		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・先月に引き続き、取扱貨物の物量が前年に比べ、15%程度低下している。
		輸送業（支店長）	競争相手の様子	・閑散期に入り、見積時における、各社の値下げ合戦が顕著に表れている。前年より受注量は減少している。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連 (四国)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・今年度に入り、求人数は増加傾向にある。特に建設・介護・医療業界はさらに人材不足が続く状況。企業も夏季の繁忙期に合わせて、人材派遣会社への発注が増えているが、業務にマッチングできる人材は不足している。
		人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・3か月前と比べて、ホワイトカラー職種の求人者を契約社員やパートから、正社員で募集をかける企業が増加している。
		求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・前年同時期と比べ、求人にかかるコストが増えた。人員不足で業務を回しきれない業種もある。また、同業種間での人員確保競争が生まれている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が前年比約14%減少し、事業主都合による離職者数も同25.6%減少するなど安定雇用の兆しが表れている。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・求人数も落ち着いており、大きな変化はない。求職者の人数が減り、募集するのに苦労している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・医療・福祉関係が前年比86.8%増加しているが、これは新規開設の影響が大きい。
		民間職業紹介機関（所長）	求職者数の動き	・求職者数が例年より減少している。ただし、労働者は、景気が良くなっているという実感があまり無く、とりあえず、今の仕事で頑張っていこうということで、離職を思いとどまっている事例が多い。
	やや悪くなっている	求人情報誌制作会社（従業員）	求人数の動き	・異動時期の3～4月は求人数が多く、今期と比べると差が出てしまう。ただし、前年より求人数は増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・消費税増税の影響が現れた月である。増税分を賄うために年間広告予算は減少した企業が多い。特にテレビスポットや折込広告といった媒体で落ち込んでいる。
職業安定所（職員）		それ以外	・5月の月間有効求人倍率は1.01倍で、3か月前より0.10ポイント低下している。	
	悪くなっている	-	-	-